

【県内市町村の持家の割合】

(2008年)



50.2%

「あなたの今住んでいるお住まいは持家ですか？それとも借家ですか？」

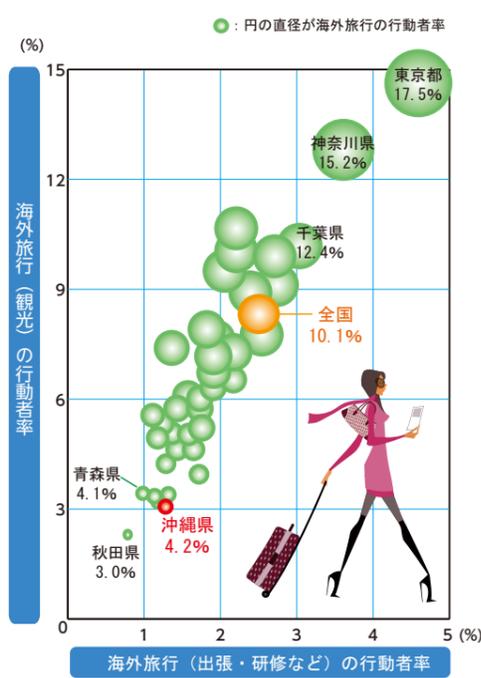
最近では人々のライフスタイルも多様化しており、マイホームを所有せずに、借家住まいが気楽だと考える人も少なくないようである。

総務省「平成20年住宅・土地統計調査」によると、沖縄県の持家率は50.2%で、全国の中では東京都の44.6%に次いで低い割合となっている。ちなみに1位は秋田県の78.4%である。データが公表されている県内19市町村の中で、もっとも持家率が低いのが那覇市の39.8%、逆に、もっとも持家率の高いのが南城市の77.6%である。人口密度が高く、地価も高い地域の持家率が低くなる傾向がみられる。東京と肩を並べるほど持家率が低い沖縄では、ライフスタイルも大きく変化しているのではないだろうか…。

(海邦総研経営企画部／上江洲龍)

【海外旅行の行動者率】

(2006年)



4.2%

ここ数年外国人観光客の入域数が増加傾向にある。世界水準の観光リゾートを目指すなら、かつて琉球王国が世界との交流で栄えたように、双方向での活発な交流が必要となるだろう。

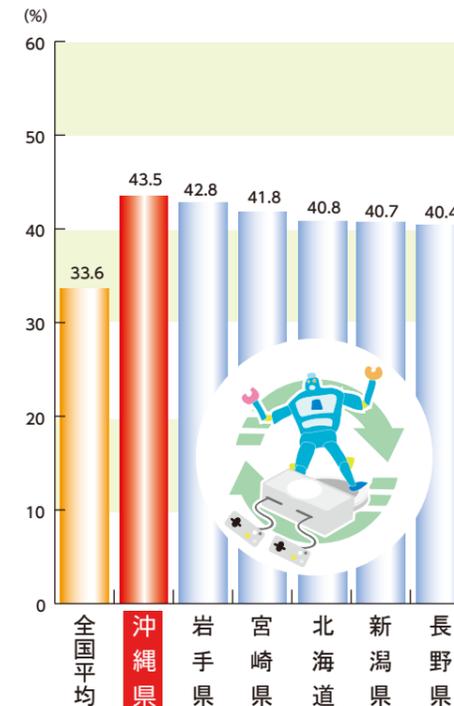
総務省が5年に1度実施する「社会生活基本調査」によると、2006年における沖縄県の海外旅行年間行動者率(10歳以上)は4.2%と、秋田県(3.0%)、青森県(4.1%)に次いで3番目に低い。行動者率が高いのは東京都(17.5%)、神奈川県(15.2%)、千葉県(12.4%)と、首都圏に集中している。さらに、観光目的での行動者率をみると、これら首都圏の3都県では10%を超えているのに対し、沖縄県では3.1%と全国で2番目に低い。

万国津梁のかけ声とともに国際交流や異文化理解への気運が高まり始めた。さて、今年実施予定の同調査では、どのような変化がみられるか、注目したい。

(海邦総研経営企画部／大井佐和子)

【リサイクル率】

(2010年)



43.5%

リサイクルとは、不用品や廃棄物を再生して利用すること。

昔から沖縄では「ゆいまーる」の心“助け合い”という素晴らしい文化がある。これがリサイクルやリユース(再利用)の原点になっているのかもしれない。

ブランド総合研究所「地域ブランド調査2010」によると、不要になったものをリサイクルに出すという行動率が沖縄県は43.5%。全国的に見ても最も高い水準だ。

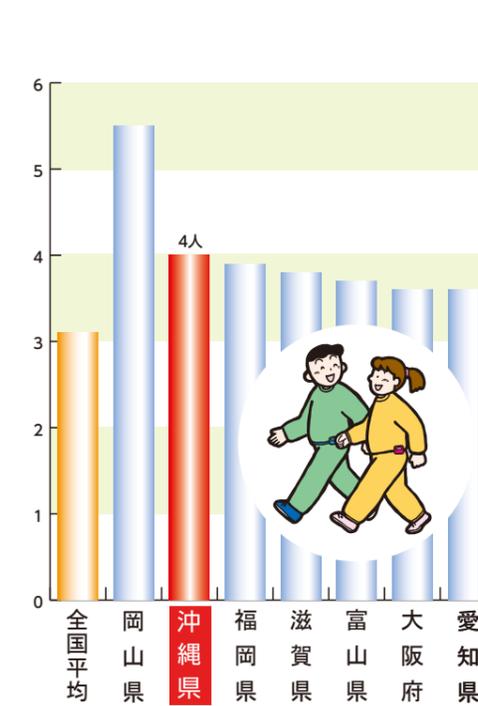
戦後、在沖アメリカ人が自宅前で行ったガレッジセールが、現在ではフリーマーケットに形を替え、週末には県内いたる所で開催されている。

「エコ」が大切なのはわかっている、一体何から始めたらよいかわからない方も多いはず。まずは家庭で不要になった古着やおもちゃ、電化製品等身近な物から楽しくリサイクルを実践してみたい。

(海邦総研会員事業部／照屋昇憲)

【健康運動指導士・実践指導者の数】

(2010年度)



4人/1万人あたり

健康維持やフルマラソン完走を目標に、スポーツクラブに通っている県民も多いのではないだろうか。

財団法人健康・体力づくり事業財団の統計によると、スポーツクラブや病院において、運動プログラムの作成、指導などができる健康運動指導士の数が沖縄県は210人。健康づくりを目的とした運動指導が可能な健康運動実践指導者も336人登録されている。合計すると546人で、1万人あたりに換算すると4人となる。都道府県別では岡山県に次いで全国で2番目に多い県となっている。

沖縄は「長寿県」でありながら、肥満の人の割合も多い「肥満県」でもある。車社会といわれ、あまり歩かない県民性や、食生活の欧米化が影響しているのかもしれない。とはいえ、何をすることも健康が第一。プロの指導を受けて安全で適切な運動を習慣化して健康増進に努めてはどうか。

(海邦総研経営企画部／島田尚徳)